

5周年記念・特集号発行！

内容

タイトル：「文化の輪を求めて」

- ・平成11年9月に産声をあげた文団連が試行錯誤しながら歩んできた5年間の、写真やポスター・座談などでふり返ります。そこから浮き彫りになる今後の課題は・・・。
 - ・また、さねとうあきら氏ら市内在住の優れた文筆家に文化に関するメッセージを寄稿して頂きました。
 - ・活動に中心的に関わった経験者会員にインタビュー「文団連に参画して想うことは？」の問いかけに、熱い思いあり、反省有り、批判有り・・・。(^ . ^)
 - ・ほっと一息「Yes・Noゲーム」で貴方のタイプを探求！！はたして、どんな文化活動に向いているのかな？
- 発行日：2月1日
ページ数：A4、8ページ・一部カラー

文団連会員はもちろん、「狭山市民芸術祭」で配布のほか、市内各公民館でも受け取ることができます。
請うご期待！！



豆知識シリーズ（その15）専門用語を一口で解説！

書のはなし

書道とは、毛筆を用いて文字を書く技、術である。中国の漢の時代に紙の発明、毛筆の改良で盛んになり、魏・晋の頃、王羲之・王献之父子によって発達してきた。

日本に伝来してから、平安時代には、草仮名が創作され能書家が、また、流派が生まれた。

- ・平安時代の三筆 = 嵯峨天皇・空海・橘逸勢
- ・寛永の三筆 = 近衛信尹（のぶただ）・本阿弥光悦・松花堂昭乗
- ・黄檗の三筆 = 隠元・木庵・即非
- ・幕末の三筆 = 市河米庵・貫名海屋・巻菱湖
- ・書聖 = 空海・菅原道真・小野道風
- ・和様書道の能書家 = 小野道風・藤原佐理・藤原行成

と上に挙げた能書家達の筆法を臨書（手本として学ぶこと）して、毛筆術を長い年月をかけて習得してゆく道である。と同時に、自分自身の内面の発露として、書作品を通して表現、意志を現す道でもある。

因みに私共芳竹会は、古典臨書は当然のことではあるが、鈴木翠軒、田中松亭の筆法の系列として、研鑽を積みつつ精進を目指している団体である。

（文責：書道芳竹会 高戸 芳川）